

おかむら通信 197号

令和3年9月号

ご挨拶

みなさん、こんにちは、お元気ですか？ 巷に様々な情報が錯綜していますが、感わされないようにしてください。みなさまにお本物を見極めていただくしかありません。不快なことは避け、耳障りの良いことは人は好みます。噂を自分に都合のいいように解釈してはいけません。人のために一心不乱に働いている方々から本当の事が見えてきます。重症患者でも救急車は3時間まち、救急車に乗っても入院できない、保健所やコールセンターは電話に出られない、日曜日はお休みのようです。どこでも人員が足りないのです。重病患者さんの受け皿を作ってこなかった、作ってこれなかった（お国に何らかの事情があるかもしれない）、PCR検査を渋ってきたことにも原因があるでしょう。

当院ではごく初期のコロナ感染者に対応すべく、初期治療を行っています。全員助けられるかわかりませんが（デルタ株は激しく、しぶとく、急速に人から人に波及します。）すぐ連絡ください。血中ウィルス濃度が感染の日から約7日目でピークになります。つまり受診日から平均2日目ごろです。それをとおり越してのんびりしていると急変し肺が真っ白（CTスキャンで）が待っています。もちろん脳へのマイクロ血栓もすでに飛んでいますよ。



院長



<庸介先生のやさしいがん（癌）のお話>

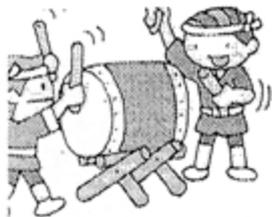
第1回：消化管粘膜に発生する癌（食道癌・胃癌・大腸癌）などについて

①癌はどうやって育つの？

正常な細胞は寿命がくると自殺するようにプログラミングされていますが、癌細胞はそれが狂っているため無限に増殖します。遺伝や普段の生活で細胞が傷ついたりすることが原因とされています。だからお酒はほどほどとかタバコはダメとか言われる訳です。

よく早期癌、進行癌と言いますね。あれは深さで決まります。癌細胞は粘膜の一番上（内側）の『粘膜層』に発生します。それが大きくなるにつれて、地下へ潜っていきます。潜った先に『粘膜下層』という層があり、そこには『リンパ管』や『血管（静脈）』が通っています。地面に水道管が走っているようなものです。この水道管にがんが達すると、癌細胞が管を通して遠くの肝臓や肺にとんでいたり、遠くのリンパ節にとんでいたりするのです。これが転移というやつです。そして粘膜下層より深くなってしまった癌を『進行癌』、粘膜下層までの癌を『早期癌』と言うのです。（食道がんはすこし違います）。言い換えれば、早期がんは『転移している可能性が低い癌』、進行癌は『転移している可能性が高い癌』という事になります。その場合は手術をお勧めします。今も昔も癌は手術





で取り切らないと治らないからです。

②「手の施しようがない」ってどういうこと？

ドラマや映画や小説で、よくこのセリフを耳にするとと思いますが、これは『切除不能進行癌』という事なんです。これもわかりづらいですね。ではこんな感じでどうでしょう。先ほど言いました通り、癌は取りきれないと治ることはありません。つまり切除不能＝治らない＝手の施しようがない、という訳です。こうなってしまうと、放っておけば胃癌や膵癌は3か月、大腸癌は8か月の余命です。抗癌剤を使って膵がんは10か月、胃がんは1年、大腸がんは2年以上を目指すことになります。逆に言えば「手の施しようがなくとも」10か月～2年の余命は目指せる訳です。一方で、副作用を考えて「緩和医療のみ」の選択肢もあります。これは人生の哲学によるところが大きいでしょう。周りの人とよく相談することも大切です。緩和医療については次にご説明いたします。

次回は癌の治療、緩和医療についてお話する予定です。

< 8月の 院長の 院内外活動 >

- 3/ (火) 松戸市医師会主催「新型コロナウイルス感染患者の対応、3市医師会合同協議」
- 5/ (木) WEB「糖尿病と非アルコール性脂肪性肝疾患」「NAFLDとNASH、つまり非アルコール性脂肪性肝疾患の中に非アルコール性脂肪性肝炎がある。」九州大学、愛知医科大学の教授による
- 17/ (火) 松戸市小児夜間急病診療所 勤務、午後8時から11時まで、
- 18/ (水) 午前 東葛クリニック病院東葛みらい、呼吸器内科の先生と。
夕方 WEB「ADHD・自閉症スペクトラム症・睡眠障害について」
松戸市立総合医療センター小児科部長
- 19/ (木) WEB 京都循環器フォーラム「心房細動の治療の実際」
- 24/ (火) WEB「循環器疾患と腸内細菌の働き」「慢性腎臓病と腸内細菌の関与」神戸大学、東北大学の先生
- 25/ (水) WEB「潰瘍性大腸炎の新しい治療薬」 東京医科歯科大学講師
- 26/ (木) WEB「high bleeding risk 出血危険群に対する治療法」「ピロリ菌陰性の方の治療、アスピリン潰瘍などについて」京都第一赤十字病院 洛和会音羽病院 循環器科および消化器科先生
- 30/ (月) WEB「膵外分泌機能不全の治療について」国際医療福祉大学教授
- 31/ (火) 「うつ病の治療を考える」市谷ひもろぎクリニックの先生



WEB 講演から一つ抜粋：

新しく古い情報として、腹満・軟便・便通異常は消化不良によるものが多く、膵機能低下、膵機能不全によることが多いのです。

